

# 授業概要（シラバス）

<理学療法学科 1 学年>

令和6年度

学校法人 君津あすなろ学園  
千葉医療福祉専門学校

学年別科目一覧

	科目名	備考	開講期	分野	単位	時間	コマ数	PT科担当	OT科担当	非常勤講師	
1 学 年	心理学	前期分	通年	基礎分野	2	60	30	富永	渡子,原,早川,他	渡邊勝	
	心理学	後期分	通年	基礎分野	2	60	30	富永	渡子,原,早川,他	渡邊勝	
	情報コミュニケーション学Ⅰ		前期	基礎分野	1	15	8	小林			
	情報コミュニケーション学Ⅱ		前期	基礎分野	1	15	8	小林			
	情報コミュニケーション学Ⅲ		前期	基礎分野	1	15	8	小林			
	公衆衛生学		後期	基礎分野	1	15	8	秋山	武井	小倉康平	
	基礎演習Ⅰ	前期分(解剖学)	通年	基礎分野	2	30	16	秋山,富永			
	基礎演習Ⅰ	後期分(解剖学)	通年	基礎分野	2	30	16	秋山,富永			
	基礎演習Ⅱ	前期分(生理学)	通年	基礎分野	2	30	16	小林,富永			
	基礎演習Ⅱ	後期分(生理学)	通年	基礎分野	2	30	16	小林,富永			
	基礎数理学		通年	基礎分野	2	30	16	小林,秋山	金谷		
	健康と身体		通年	基礎分野	1	30	15	富永	金谷,渡子,武井	川原元	
	社会福祉概論		後期	基礎分野	1	30	15	秋山	武井	佐藤真生子	
	人体の構造Ⅰ		前期	専門基礎分野	1	30	15	秋山	金谷		
	人体の構造Ⅱ		後期	専門基礎分野	1	30	15	秋山	金谷		
	人体の構造Ⅲ		前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村	原		
	人体の構造Ⅳ		後期	専門基礎分野	1	30	15	秋山	原		
	人体の機能Ⅰ		前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村	武井		
	人体の機能Ⅱ		後期	専門基礎分野	1	30	15	岡村	武井		
	運動学Ⅰ		後期	専門基礎分野	1	30	15	藤原	金谷		
	リハビリテーション医学Ⅰ   栄養予防		後期	専門基礎分野	2	30	15	富永	渡子	岩瀬麻美	
	病理学		後期	専門基礎分野	1	30	15	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	リハビリテーション概論Ⅰ	前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	秋山	渡子	その他	
	リハビリテーション概論Ⅰ	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	秋山	渡子	その他	
	理学療法概論	前期分	通年	専門分野	2	60	30	秋山,岡村			
	理学療法概論	後期分	通年	専門分野	2	60	30	秋山,岡村			
	基礎理学療法Ⅰ		後期	専門分野	1	30	15	秋山,岡村,富永			
	理学療法評価学Ⅲ (ROM)		後期	専門分野	1	30	15	富永			
	地域リハビリテーション		後期	専門分野	1	30	15	藤原		安藤龍治,ゴルディ,ロックス	
	職業リハビリテーション		後期	専門分野	1	15	8	小林			
	リハビリテーション機器		前期	専門分野	1	30	15	藤原		安藤龍治	
	地域リハビリテーション実習		通年	専門分野	1	40		秋山			
	ソーシャルアクティブラーニング		通年	その他	1	30	15	藤原,小林,富永		志塚健一郎	
	総合共同演習Ⅰ		前期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	総合実証演習Ⅰ		後期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	総合問題演習Ⅰ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永			
	臨床思考演習Ⅰ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永			
	2 学 年	人間発達学		前期	基礎分野	1	30	15	岡村	金谷	
		人体の構造実習		通年	専門基礎分野	1	30	15	藤原,小林	金谷	
		人体の機能実習		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原	金谷,武井	
		運動学Ⅱ		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原,富永	武井	
		運動学Ⅲ		後期	専門基礎分野	1	30	15	小林	金谷	
機能解剖学			後期	専門基礎分野	1	15	8	藤原,小林		須藤祐亮	
運動生理学			前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村,富永			
リハビリテーション医学Ⅱ   薬理			前期	専門基礎分野	1	15	8	岡村	渡子	富沢謙俊	
内科学		前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村,富永	武井	庄司行孝	
内科学		後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村,富永	武井	庄司行孝	
運動器病態学		前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原,富永	武井	保住寛	
運動器病態学		後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原,富永	武井	保住寛	
臨床神経学Ⅰ			前期	専門基礎分野	1	15	8	秋山,岡村			
臨床神経学Ⅱ			後期	専門基礎分野	1	15	8	秋山,岡村			
精神医学		前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村	藤部		
精神医学		後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	岡村	藤部		
臨床心理学			前期	専門基礎分野	1	30	15	岡村		渡邊勝	

2 学 年	リハビリテーション概論Ⅱ	前期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原	早川		
	リハビリテーション概論Ⅱ	後期分	通年	専門基礎分野	2	60	30	藤原	早川		
	基礎理学療法Ⅱ		前期	専門分野	1	30	15	小林,秋山,岡村			
	基礎理学療法Ⅲ(正常発達)		後期	専門分野	1	15	8	岡村			
	理学療法評価学Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	秋山,富永			
	理学療法評価学Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	秋山,富永			
	理学療法評価学Ⅳ(MMT)		前期	専門分野	1	30	15	富永			
	理学療法評価学Ⅵ(画像診断)		後期	専門分野	1	15	8	藤原		本間星美	
	理学療法評価学演習		後期	専門分野	1	30	15	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	物理療法Ⅰ		前期	専門分野	1	15	8	秋山			
	物理療法Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	岡村			
	器具学		後期	専門分野	1	20	10	藤原			
	職能学		後期	専門分野	1	30	15	小林			
	日常生活動作Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	秋山			
	日常生活動作Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	富永			
	慢性疾患理学療法治療学		後期	専門分野	1	30	15	小林		本間星美	
	住宅改修		後期	専門分野	1	30	15	富永		本間星美	
	臨床計画演習		後期	専門分野	1	40		富永			
	総合共同演習Ⅱ		前期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	総合問題演習Ⅱ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永			
臨床思考演習Ⅱ		通年	その他	1	15	8	藤原,富永				
運動学実習		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原,小林,岡村				
3 学 年	リハビリテーション医学ⅢⅠ工学		後期	専門基礎分野	1	30	15	藤原		その他	
	救急救命法		前期	専門基礎分野	1	30	15	藤原		日本赤十字	
	理学療法研究法		通年	専門分野	1	30	15	小林			
	理学療法管理学		前期	専門分野	2	30	18	藤原		松田敬	
	理学療法評価学Ⅴ(高次級)		前期	専門分野	1	15	8	岡村		安藤龍治	
	職能器具実習		後期	専門分野	1	30	15	藤原		安藤,志塚	
	動作分析		前期	専門分野	1	30	15	秋山,岡村			
	整形外科理学療法治療学Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	小林,岡村			
	整形外科理学療法治療学Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	秋山,岡村			
	中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ		前期	専門分野	1	30	15	藤原		倉山太一	
	中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ		後期	専門分野	1	30	15	岡村			
	スポーツ疾患理学療法治療学		後期	専門分野	1	30	15	藤原		奥村麻耶,本間秀文	
	呼吸器疾患理学療法治療学		前期	専門分野	1	30	15	藤原		新堀健士	
	小児理学療法治療学		前期	専門分野	1	30	15	藤原		平野いづみ	
	老年期理学療法治療学		後期	専門分野	1	15	8	秋山		安藤龍治	
	循環・代謝疾患理学療法治療学		後期	専門分野	1	30	15	秋山		新堀健士	
	理学療法技術論Ⅰ		前期	専門分野	1	15	8	藤原,秋山,岡村			
	理学療法技術論Ⅱ		前期	専門分野	1	30	15	小林,秋山,岡村,富永			
	臨床評価実習		後期	専門分野	4	180		藤原			
	総合共同演習Ⅲ		前期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	総合実践演習Ⅱ		後期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	総合問題演習Ⅲ	前期分	通年	その他	2	60	30	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	総合問題演習Ⅲ	後期分	通年	その他	2	60	30	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	臨床思考演習Ⅲ		通年	その他	1	15	8	小林			
	卒業研究Ⅰ		後期	その他	1	15	8	藤原,小林,秋山,岡村,富永			
	4 学 年	臨床総合実習		前期	専門分野	14	630		小林		
		総合問題演習Ⅳ		通年	その他	2	120	60	小林		
臨床思考演習Ⅳ			通年	その他	1	20	10	小林			
卒業研究Ⅱ			前期	その他	1	30	15	藤原,小林,秋山,岡村,富永			

PT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		「自分を知る、他人を読む」・心理学の諸分野について基本的な理論を学び、自己を客観的に見る力と他人の行動を理解する力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通じて体験的に学び、客観的なデータを元に自己像を知ることができるようになる。</li> <li>・他者の心の中で生じていることを読み、理解できるようになる。</li> <li>・心理学各論を学び、基本的な心理学構成概念、用語について理解できるようにする。</li> </ul>
心理学			
前期分			
基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○富永		
作業療法学科：	兼子,原,早川,他		
非常勤講師：	渡邊肇		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	心理学とは何か？	どうして心理学を学ばなければどうして心理学を学ばなければならないのか、臨床や他者理解、治療を実例に学習し、その必要性を理解してもらう。	
2	心理学と諸分野：行動経済学	心理学の基礎となる確率、統計について、行動経済学の実例を元に学習し、確率的な思考、科学的思考について理解し、心理学の方法論を利用できるようにする。	
3	性格心理学 ジョハリの窓演習	性格の心理学的定義を理解し、臨床場面において他者を理解する道具として使えるようにする。	
4	性格心理学 ジョハリの窓演習	性格の心理学的定義を理解し、臨床場面において他者を理解する道具として使えるようにする。	
5	性格の理論：類型論と特性論	性格理論について学習し、類型論、特性論を理解できるようにする。	
6	性格検査 質問紙法 エゴグラム演習	心理アセスメントについて学習し、心理検査の種類、内容を理解できるようにする。性格検査についてエゴグラムを用いて実習し、質問紙法性格検査を分析できるようにする。	
7	性格検査 質問紙法 エゴグラム演習	心理アセスメントについて学習し、心理検査の種類、内容を理解できるようにする。性格検査についてエゴグラムを用いて実習し、質問紙法性格検査を分析できるようにする。	
8	性格検査 質問紙法 エゴグラム演習	心理アセスメントについて学習し、心理検査の種類、内容を理解できるようにする。性格検査についてエゴグラムを用いて実習し、質問紙法性格検査を分析できるようにする。	
9	性格検査 投影法 バウムテスト演習	性格検査についてバウムテストを用いて実習し、投影法性格検査の内容を理解できるようにする。	
10	性格検査 投影法 バウムテスト演習	性格検査についてバウムテストを用いて実習し、投影法性格検査の内容を理解できるようにする。	
11	性格検査 投影法 バウムテスト演習	性格検査についてバウムテストを用いて実習し、投影法性格検査の内容を理解できるようにする。	
12	生理と心理 ストレスとコーピング	ストレスの仕組み、コーピングについて学習し、ストレスの仕組みを理解する。	
13	生理と心理 ストレスとコーピング	ストレスの仕組み、コーピングについて学習し、ストレスの仕組みを理解する。	
14	生理と心理 ストレスとコーピング	ストレスの仕組み、コーピングについて学習し、ストレスの仕組みを理解する。	
15	生理と心理 ストレスとコーピング	ストレスの仕組み、コーピングについて学習し、ストレスの仕組みを理解する。	
教科書・参考書・資料			
青木智子 医療と健康のための心理学 北樹出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100点（前期・後期のレポート、授業中の提出物）		授業では実習、実験、グループディスカッションなどの方法を用いることが多いので、遅刻等ないように留意すること。	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		「自分を知る、他人を読む」 心理学の諸分野について基本的な理論を学び、自己を客観的に見る力と他人の行動を理解する力を身につける。	実習を通じて体験的に学び客観的なデータを元に自己像を知ることができるようになる。他者の心の中で生じていることを読み理解できるようになる。心理学各論を学び基本的な心理学構成概念用語について理解できるようにする。心理学方法論を学習し科学的な思考法推論法を身につけられるようにする。
心理学			
後期分			
基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○富永		
作業療法学科：	兼子,原,早川,他		
非常勤講師：	渡邊馨		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	前期レポート講評	レポートを講評することで、医療現場における科学的で読みやすいレポートの書き方について学習する。	
2	記憶とその種類	記憶について学習し、記憶の種類、構造について理解する。	
3	記憶とその種類	記憶について学習し、記憶の種類、構造について理解する。	
4	学習・行動	学習理論について学習し、学習の種類、構造について理解し、学習による行動の変容を理解できるようにする。	
5	感覚・知覚・認知	感覚・知覚・認知についてその定義を理解し、人の認知処理を理解できるようにする。	
6	学習・認知心理学「方向感覚」	方向感覚に関する演習により、学習の仕組み、認知機能について理解する。	
7	心理アセスメント：知能	心理アセスメントのうち、知能に関する検査を実習し、知能についての定義、知能検査の種類について学習する。	
8	心理アセスメント：知能	心理アセスメントのうち、知能に関する検査を実習し、知能についての定義、知能検査の種類について学習する。	
9	動機・欲求	動機・欲求について学習し、医療現場で頻出する防衛機制について実例に基づき理解する。	
10	動機・欲求	防衛機制の定義、実例を学習し、防衛機制の種類、それぞれの定義、転移逆転移、について理解する。	
11	性格心理学 ジョハリの窓演習	ジョハリの窓演習を再度行い、前期結果との比較をして「自己開示」の変化を読み解く。	
12	発達心理学	発達について、子どものケースを中心に学習し、エリクソンの心理社会的発達理論を理解する。	
13	発達心理学	発達について、青年期のケースを中心に学習し、エリクソンの心理社会的発達理論を理解する。	
14	発達心理学	発達について、老人期のケースを中心に学習し、エリクソンの心理社会的発達理論を理解する。また認知症について学習する。	
15	まとめと振り返り	これまでの授業を総括し「自分を知る、他人を読む」心理学上の理論を再学習する。	
教科書・参考書・資料			
青木智子 医療と健康のための心理学 北樹出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100点（前期・後期のレポート、授業中の提出物）		授業では実習、実験、グループディスカッションなどの方法を用いることが多いので、遅刻等ないように留意すること。	

PT1年	前期	講義概要	一般目標
基礎分野		コミュニケーションは、健全な集団や組織のために必要であり、人間社会の基盤である。理学療法学生に必要なコミュニケーションについて様々な観点から学ぶ。また実習は、医療機関の職員や利用者との貴重なコミュニケーションの機会であり、実習前後の課題や発表等を通じて理解を深める。	①情報コミュニケーションとは何かを学ぶ ②学生生活のルール、医療職としてのマナー・コミュニケーションスキルなどについて総合的に学ぶ。
情報コミュニケーション学Ⅰ			
基礎分野	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： ○小林 作業療法学科： 非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	学生生活のオリエンテーション	学生便覧の読み合わせ。校内規則や各種手続きについて説明を聞く。	
2	学生生活のオリエンテーション	学内生活のルールを学び、授業を円滑に進めることができるようになる。	
3	ホームルーム①	学内にある教室を実際に確認することにより、使用方法について再確認する。	
4	コミュニケーションと集団活動①	教員や他学科の学生との交流を図り、コミュニケーション能力の向上を図り、集団活動に能動的に参加する。	
5	コミュニケーションと集団活動②	集団で1つの課題に取り組むことで、集団の一員として活動を円滑に進めることができる。	
6	専門教育を学ぶための土台作りを行い、授業に早く慣れるようにする。	心理的安全性について	
7	地域リハ実習、ソーシャルアクティブラーニングの準備	車椅子の使用方法をはじめ、実習で必要とされるリスク管理について学ぶ。	
8	前期試験に向けた準備	クラスメートと勉強方法の共有を図る	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
必要に応じてプリント資料およびデータファイルを配布			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100点		医療関係職種としての基本姿勢・資質に関する科目であり、学校生活の中で定着するように取り組むこと。	

PT1年	前期	講義概要	一般目標	
基礎分野		<p>コンピュータを実際に操作することにより、理解を深めていく授業形態をとる。具体的な内容は、パソコンとWindowsの操作、電子メールの登録と操作法、ブラウザソフトの操作法、Officeによるワープロ、プレゼンテーション、表計算ソフトの操作法などの演習を進捗状況にあわせて進める。</p>	<p>理学療法学生にとって、授業や実習でのレポート作成やプレゼンテーション資料作成機会は多く、その能力の獲得は必須である。本講義では、前述した能力の獲得に必要なコミュニケーションツールの基礎、アプリケーションソフトの基礎、プレゼンテーションの基礎について理解を深め、操作方法の修得を目標とする。</p>	
情報コミュニケーション学Ⅱ				
基礎分野	時間数 1			コマ数 15
理学療法学科：	○小林			
作業療法学科：				
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	アカウント取得と利用方法について	Googleアカウント取得およびGmail、メールの送り方について説明し、メール送信を行う。		
2	関連ツール、ソフト使用について①	Google Drive、カレンダーの使用方法について説明、Google フォームの使用方法について、		
3	関連ツール、ソフト使用について③	プレゼンテーションソフトの使用練習		
4	関連ツール、ソフト使用について④	プレゼンテーションの練習		
5	関連ツール、ソフト使用について②	wordの使い方について、文字入力練習、		
6	関連ツール、ソフト使用について⑤	報告書（実習等）やレポート作成について		
7	関連ツール、ソフト使用について⑥	表計算ソフトの使用方法について		
8	全体の振り返り	1～7までの授業内容の振り返り、理解が不十分な点に付いて再度演習を行う。		
9	.	.		
10	.	.		
11	.	.		
12	.	.		
13	.	.		
14	.	.		
15	.	.		
教科書・参考書・資料				
必要に応じてプリント資料およびデータファイルを配布				
判定基準／割合		履修上の留意点		
各回の作業内容、提出物にて評価する。		時間を見つけてコンピュータに接し、自ら学習する習慣をつけることが必要である		

PT1年	前期	講義概要	一般目標
基礎分野		医療専門職として必要なコミュニケーション能力および理解力、思考力を高めることを目的とし開講する。演習を通じて、人前で自分の意見や気持ちを表現できるコミュニケーション能力を高めるとともに、医療職に必要な理解力、思考力について理解する。	医療専門職として必要となるコミュニケーション力（自己表現、他者理解、共同生活能力助長）を高める。また、医療職の基礎となる知識や技術を習得するための実践方法を理解する。
情報コミュニケーション学Ⅲ			
基礎分野	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： ○小林 作業療法学科： 非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	社会人基礎力について	社会人基礎力とは何かを学び、自らの社会人基礎力を知ることで、社会人に相応しい行動変容の第一歩とする。	
2	学ぶ姿勢の構築、ノートテイクについて	今後の学生生活における適応的な学ぶ姿勢を知り、能動的な授業参加姿勢の構築へと繋げる。効率的なノートテイクを行うことで、知識の定着を図る。	
3	レポート・報告書の書き方	課題提出時のレポートや報告書の作成方法を学び、今後の学校生活に役立てることができる。	
4	自分と他者の気質について	自らと他者の気質を理解することで、自分の弱みと強みを理解する。	
5	面談および進捗状況の確認	チューター教員との面談を通じて、振り返りを行う	
6	面談および進捗状況の確認	チューター教員との面談を通じて、振り返りを行う	
7	面談および進捗状況の確認	チューター教員との面談を通じて、振り返りを行う	
8	面談および進捗状況の確認	チューター教員との面談を通じて、振り返りを行う	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
特に指定せず。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100点		演習の要素が多い、学生参加型（自主性を要す）授業である。	



PT1年	後期	講義概要	一般目標
基礎分野		人間は社会の中で生きる存在である。一人のひとの健康や人生は社会から大きな影響を受け、一方で、一人ひとりの人が全体として社会を作っているともいえる。公衆衛生の授業では私たちの健康に影響を与える諸要素について理解を深める。特に健康行動、環境保健、医療政策の3つに軸をおいて授業を行う。	公衆衛生の概念と重要性、我が国における健康を支える社会のシステムや取り組みを学び、社会的な面からも健康をとらえる視座を持つことができる。
公衆衛生学			
基礎分野	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科：	○秋山		
作業療法学科：	武井		
非常勤講師：	山瀬、小倉		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	総論	医療と公衆衛生の歩み、健康と公衆衛生の概念、公衆衛生分野におけるキーワードについて解説する。	
2	保健統計	公衆衛生指標のうち重要なものについて、その概念と我が国における動向を学ぶ。	
3	医の倫理と法令	医療・公衆衛生分野における、倫理や法令について学ぶ。	
4	社会保障と医療経済	我が国における社会保障体制について知り、また医療経済の現状を学ぶ。	
5	感染症対策	社会全体や医療機関における感染症対策について、その基礎的な事項を学ぶ。	
6	母子保健・高齢者保健	各領域における公衆衛生指標と現状の課題を理解し、国や社会の取り組みについて学ぶ。	
7	障害者保健・精神保健	各領域における公衆衛生指標と現状の課題を理解し、国や社会の取り組みについて学ぶ。	
8	理解度の確認	本試験実施	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
教科書：真野喜洋「スタンダード公衆衛生学」 文光堂 2002年			
参考書：山崎喜比古、朝倉隆司「生き方としての健康科学」 有信堂高文社 1999年			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：10点 素点：本試験90点		講義のみならず、多くの参加型ワークショップによって授業を進める。	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		解剖学（骨学）の復習を行い、知識の定着を図る。また、骨学の国家試験問題演習も実施する。	人体の骨の名前や構造を説明することができる。
基礎演習Ⅰ			
前期分（解剖学）			
基礎分野	時間数 2 コマ数 30		
理学療法学科： ○秋山, 富永			
作業療法学科：			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	解剖学の基礎① 復習 【富永】	○人体の構造Ⅰにて実施した内容について復習を行う。	
2	解剖学の基礎② 復習 【富永】	○人体の構造Ⅰにて実施した内容について復習を行う。	
3	上肢帯・上肢の骨 復習 【富永】	○人体の構造Ⅰにて実施した内容について復習を行う。	
4	下肢帯・下肢の骨 復習 【富永】	○人体の構造Ⅰにて実施した内容について復習を行う。	
5	上肢帯・上肢の筋 復習 【富永】	○人体の構造Ⅰにて実施した内容について復習を行う。	
6	下肢帯・下肢の筋 復習 【富永】	○人体の構造Ⅰにて実施した内容について復習を行う。	
7	全体の振り返り 【富永】	○人体の構造Ⅰにて実施した内容について復習を行う。	
8	.	.	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
解剖学の教科書、人体の構造Ⅰの授業資料を持参してください。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：50点		積極的な参加を望みます。	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		神経系の解剖学・生理学の復習を行い、知識の定着を図る。また、それに類する国家試験問題演習も実施する。	中枢神経・末梢神経の構造について理解できることを目標とする
基礎演習Ⅰ			
後期分（解剖学）			
基礎分野	時間数 2 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：		○秋山, 冨永	
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	筋学の復習①（秋山）	人体の構造Ⅱで学んだ筋の起始・停止・イメージを復習する	
2	筋学の復習②（秋山）	人体の構造Ⅱで学んだ筋の起始・停止・イメージを復習する	
3	筋学の復習③（秋山）	人体の構造Ⅱで学んだ筋の起始・停止・イメージを復習する	
4	筋学の復習④（秋山）	人体の構造Ⅱで学んだ筋の起始・停止・イメージを復習する	
5	神経の復習①（秋山）	粘土を用いて中枢神経の構造を理解する	
6	神経の復習②（秋山）	粘土を用いて中枢神経の構造を理解する	
7	神経の復習③（秋山）	粘土を用いて中枢神経の構造を理解する	
8	神経の復習④（秋山）	粘土を用いて中枢神経の構造を理解する	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
特になし。配布資料と解剖学の授業資料を持参してください。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：50点（毎回授業で作成する提出物にて採点）		秋山授業に関してはノート持参してください。積極的なディスカッションを望みます。	

PT1年	適年	講義概要	一般目標
基礎分野		生理学全般の復習を行い、繰り返し学習によって知識の定着を図る。また、それに類する国家試験問題演習も実施する。	各機能系について、物理的・化学的要素を出発点に、現象の生理学的な説明ができる。演習では実際に知識を問題解決のために用い、思考して問題を解くことができる。予習・復習の体験を通じてそれぞれの価値に気づくことができる。
基礎演習 II			
前期分（生理学）			
基礎分野	時間数 2 コマ数 30		
理学療法学科：	○小林, 冨永		
作業療法学科：			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	予習と復習【小林】：遺伝, 細胞	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
2	予習と復習【小林】：赤血球, 免疫系	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
3	予習と復習【小林】：循環器系	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
4	予習と復習【小林】：泌尿器系, 呼吸器系	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
5	予習と復習【小林】：消化・吸収, 代謝	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
6	予習と復習【小林】：血液凝固系・線溶系	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
7	予習と復習【小林】：自律神経系	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
8	予習と復習【小林】：内分泌系	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
人体の機能 I・II で使用している資料と、作成しているまとめノートを持参すること。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点50点		積極的な参加を望みます。	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		生理学全般の復習を行い、繰り返し学習によって知識の定着を図る。また、それに類する国家試験問題演習も実施する。前半は植物性機能全般、後半は動物性機能全般の理解を深める。	筋の機能や反射、神経の機能や仕組みについて説明することができる。
基礎演習Ⅱ			
後期分（生理学）			
基礎分野	時間数 2 コマ数 30		
理学療法学科： ○小林,富永			
作業療法学科：			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	予習と復習【富永】：筋	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
2	予習と復習【富永】：筋	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
3	予習と復習【富永】：筋	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
4	予習と復習【富永】：伸張反射	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
5	予習と復習【富永】：伸張反射	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
6	予習と復習【富永】：神経	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
7	予習と復習【富永】：神経	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
8	予習と復習【富永】：中枢神経、感覚	生理学講義と問題演習・ノートの整理	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
人体の機能Ⅰ・Ⅱで使用している資料と、作成しているまとめノートを持参すること。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：50点		積極的な参加を望みます。	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		<p>力学を中心とした物理学と、その基礎となる数学について、基本的なもの見かたや考えかたを解説し、演習を行う。高校物理は前提としないが、「自分のあたまで考える」心がまえは必須である。</p>	<p>数学を使った表現に慣れ、「読み書き」ができるようになる。さまざまな物理現象を物理学の目で見ることができ、物理学の考えで説明できるようになる。またそこにかかわる物理量の意味が理解でき、計算ができるようになる。</p>
基礎数理学			
基礎分野	時間数 2 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○小林,秋山		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	第1章 四則演算 (前期) 秋山	整数・少数の計算、四捨五入、平方根の計算など	
2	第2章 比の計算 (前期) 秋山	比と比例式、比の値と比の計算	
3	第3章 三角関数 (前期) 秋山	整数・少数の計算、四捨五入など、比と比例式、比の値と比の計算	
4	第11章 運動強度・カロリー計算 (前期) 秋山	代謝とエネルギー代謝率、代謝当量 (Mets)、BMIと標準体重、消費エネルギー	
5	第11章 運動強度・カロリー計算 (前期) 秋山	代謝とエネルギー代謝率、代謝当量 (Mets)、BMIと標準体重、消費エネルギー	
6	第11章 運動強度・カロリー計算 (前期) 秋山	代謝とエネルギー代謝率、代謝当量 (Mets)、BMIと標準体重、消費エネルギー	
7	第5章神経伝導速度、第14章 四分表 (前期) 秋山	神経伝導速度の計算、四分表の計算	
8	物理量について (後期)	単位の意味を理解し、単位の変換ができる	
9	第4章 速度とか速度 (後期)	速度、加速度、重力加速度、v-tグラフを理解し、計算ができる	
10	第6章 力と仕事 (後期)	力と質量、重さ、運動の法則、仕事率を理解し、計算ができる	
11	第6章 力と仕事 (後期)	実技を交えて、力や運動の法則について理解を深める	
12	第8章 てこの計算 (後期)	内力と外力、モーメント、てこのつり合いを理解し、計算ができる	
13	第8章 てこの計算 (後期)	実技を交えて、モーメントについて理解を深める	
14	第12章 回転運動のトルクと仕事率 (パワー) (後期)	トルクとモーメントについて理解し、計算ができる	
15	理解度確認	筆記試験	
教科書・参考書・資料			
教科書：PT・OT国家試験対策ワークブック 計算問題 医師薬出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
<p>素点：5点、平常点45点、計50点。後期も同様の割合で判定する。</p>		<p>進行状況によっては、前倒して進みます。早め早めに予習をするようにしてください。また数学を苦手としている学生は早めに教員に質問するようにしてください。</p>	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		実際に体を動かし、座学で学んだ基礎知識の活用方法を学ぶ。	患者に限らず、対象者の運動学習を促すにあたり、自らの体験・経験を踏まえた上での運動指導ができるようになる。
健康と身体			
基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○富永		
作業療法学科：	金谷,兼子,武井		
非常勤講師：	川原元		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
2	健康と身体	側転 振りつけ グループワーク ダイナミックストレッチ	
3	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
4	健康と身体	振りつけ グループワーク 体幹トレーニング	
5	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
6	健康と身体	側転 振りつけ グループワーク	
7	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
8	健康と身体	振りつけ グループワーク 3点倒立	
9	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
10	健康と身体	振りつけ グループワーク 3点倒立	
11	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
12	健康と身体	3点倒立、自重コアトレーニング	
13	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
14	健康と身体	3点倒立、自重コアトレーニング	
15	習得度確認	実技試験	
教科書・参考書・資料			
なし。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点：実技試験・レポートより総合的に判定		動きやすい服装で臨むこと	

PT1年	後期	講義概要	一般目標
基礎分野		社会福祉は「国民一人一人のよりよい生活を支えるための社会的努力や方策の総体」です。医療や福祉の専門職は多くの社会資源を知り有効に活用できる力が必要です。この授業では社会福祉の概念、対象者、具体的な制度のポイント、高齢社会の動向、今後の課題について学習します。	1 社会福祉の基本となる概念を理解する。 2 福祉ニーズを持つ人を支える法や制度を理解する 3 現在の医療・保健・福祉の実態、今後の課題を知る。
社会福祉概論			
基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： ○秋山 作業療法学科： 武井 非常勤講師： 佐藤真生子			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	社会福祉と生活問題	社会福祉の概念、社会福祉の対象、生活問題との関係について学ぶ	
2	社会福祉を取り巻く社会状況	超高齢社会の現状を知る	
3	社会福祉の原理①	ノーマライゼーション思想とはどのようなものか	
4	社会福祉の原理②	自己決定、自立について考える	
5	障害者の福祉①	障害とは何か 障害者福祉の発展	
6	障害者の福祉②	障害者の福祉を支える諸制度 事例から考える	
7	障害者の福祉③	障害者総合支援法のポイント	
8	高齢者の福祉①	高齢期の特徴 高齢者の生活実態	
9	高齢者の福祉②	要介護高齢者と介護問題	
10	高齢者の福祉③	介護保険法のポイント	
11	貧困問題と社会福祉①	貧困の定義、日本の貧困の動向	
12	貧困問題と社会福祉②	所得を保障する法律や制度の概要を押さえる	
13	子ども家庭福祉①	子どもの権利、子育て・子育てをめぐる課題	
14	子ども家庭福祉②	子ども福祉を支える諸サービス	
15	理解度の確認	本試験	
教科書・参考書・資料			
参考書：●新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉、メディカルフレンド社 ●山縣文治、岡田忠克編 「よくわかる 社会福祉」第10版 ミネルヴァ書房 ●NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会「医療福祉総合ガイドブック」医学書院 ●岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著「ウェルビーイングタウン社会福祉入門」有斐閣アルマ			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：リフレクションシート20点 素点：本試験80点		TV、新聞、ネットなどで福祉や医療のニュースを意識して視聴してください。	



PT1年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>正常な人体の構造を理解し、その構造がどのように機能発現に関わっているのかを学ぶ。</p> <p>正常な構造と機能が基となり、病気の成り立ちを理解することが、それに基づいた診断と治療・リハビリの裏付けとなり科学的根拠を深めることになる。</p>	<p>◎全身の概ねの構造について説明できる</p> <p>◎身体の階層構造について説明できる</p> <p>◎骨とその詳細な部位について説明できる</p> <p>◎関節の構造について説明できる</p>
<p>人体の構造 I</p> <p>専門基礎分野 時間数 1 コマ数 30</p>			
<p>理学療法学科： ○秋山</p> <p>作業療法学科： 金谷</p> <p>非常勤講師：</p>			
回	項目		
1	<p>オリエンテーション【金谷】</p> <p>解剖学総論</p> <p>(教科書；第1章 I ⅡⅢ p3-20)</p>	<p>○「人体の構造 I」の講義概要を理解する。教科書の構成を確認する。</p> <p>○解剖学の目的、解剖学的位置および方向と位置を示す解剖学用語を理解する。</p> <p>○身体は細胞、組織、器官、系統の階層構造からなることを理解する。</p>	
2	<p>骨学総論【金谷】</p> <p>(教科書；第2章 I p37-45)</p>	<p>○骨の構造や発生について総論的に理解する。</p> <p>○骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を正確に知る。</p> <p>○なぜ存在するのかを理解しながら、個々の骨の特徴的な構造を学習する。</p>	
3	<p>骨学各論 上肢の骨①【金谷】</p> <p>上肢帯(鎖骨・肩甲骨)</p> <p>(教科書；第2章 II p68-71)</p>	<p>○鎖骨・肩甲骨の構造について理解する。</p> <p>○各骨の詳細部位や、そこに付着する物について理解する。</p> <p>○各骨の連結を大まかに知る。</p>	
4	<p>骨学各論 上肢の骨②【金谷】</p> <p>自由上肢骨(上腕骨)</p> <p>(教科書；第2章 II p71-72)</p>	<p>○上腕骨の構造について理解する。</p> <p>○各骨の詳細部位や、そこに付着する物について理解する。</p> <p>○各骨の連結を大まかに知る。</p>	
5	<p>骨学各論 上肢の骨③【金谷】</p> <p>自由上肢骨(橈骨・尺骨)</p> <p>(教科書；第2章 II p72-74)</p>	<p>○橈骨・尺骨の構造について理解する。</p> <p>○各骨の詳細部位や、そこに付着する物について理解する。</p> <p>○各骨の連結を大まかに知る。</p>	
6	<p>骨学各論 上肢の骨④【金谷】</p> <p>自由上肢骨(手根骨・中手骨・指骨)</p> <p>(教科書；第2章 II p74-77)</p>	<p>○手根骨・中手骨・指骨の構造について理解する。</p> <p>○各骨の詳細部位や、そこに付着する物について理解する。</p> <p>○各骨の連結を大まかに知る。</p>	
7	<p>関節韌帯学総論【金谷】</p> <p>(教科書；第3章 I p97-112)</p>	<p>○骨の連結の正常な構造と機能を総論的に学ぶ。</p> <p>○骨の連結を3種類に大別して、それらの安定性と可動性を比較する。</p> <p>【体験・実技】自身の身体を動かして、関節の可動を知る(動きやすい服装で)</p>	
8	<p>骨学各論 脊柱・胸郭①(秋山)</p>	<p>脊柱の構造(椎体・椎弓・棘突起)や頸椎・胸椎・腰椎の構造の違いについて理解する</p>	
9	<p>骨学各論 脊柱・胸郭②(秋山)</p>	<p>胸郭の構造(肋骨の構造・形態・脊柱との関係性)について理解する</p>	
10	<p>骨学各論 下肢の骨①(秋山)</p>	<p>骨盤の構造(腸骨・坐骨・恥骨；寛骨、骨盤)について理解する</p>	
11	<p>骨学各論 下肢の骨②(秋山)</p> <p>(教科書；第2章 II p82-85)</p>	<p>自由下肢骨(大腿骨・膝蓋骨)の構造について理解する</p>	
12	<p>骨学各論 下肢の骨③(秋山)</p>	<p>自由下肢骨(脛骨・腓骨)の構造について理解する</p>	
13	<p>骨学各論 下肢の骨④1回目(秋山)</p>	<p>自由下肢骨(足根骨・中足骨・趾骨)の構造について理解する</p>	
14	<p>骨学各論 下肢の骨④2回目(秋山)</p>	<p>自由下肢骨(足根骨・中足骨・趾骨)の構造について理解する</p>	
15	<p>理解度の確認</p>	<p>本試験</p>	
教科書・参考書・資料			
<p>教科書：野村巖(編)：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野、解剖学。第5版、医学書院、2015。</p> <p>参考書：Wynn Kapitほか(著)、嶋井和世(訳)：カラスケッチ解剖学。第3版、廣川書店、2003。</p> <p>松村譲児：イラスト解剖学。第8版、中外医学社、2014。</p>			
判定基準/割合		履修上の留意点	
<p>平常点：毎回小テストを実施</p> <p>素点：本試験にて採点</p>		<p>○判定の割合については、毎回の小テストの進捗状況にて判断します。</p>	

PT1年	後期	講義概要	一般目標	
専門基礎分野		<p>正常な人体の構造を理解し、その構造がどのように機能発現に関わっているかを学ぶ。正常な構造と機能が基になり病気の成り立ちを理解することが、それに基づいた診断と治療・リハビリの裏付けとなり科学的根拠を深めることになる。</p>	<p>全身の筋の（起始、停止、作用、神経節節、走行）を理解できることを目標とする。</p>	
<p>人体の構造Ⅱ</p>				
専門基礎分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○秋山			
作業療法学科：	金谷			
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	オリエンテーション【金谷】筋学総論	○「人体の構造Ⅱ」の講義概要を理解する。教科書の構成を確認する。○筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用、骨格筋の神経支配		
2	上肢帯の筋・上腕の筋【金谷】	○上肢帯、上腕の筋について構造（起始・停止・走行・作用・神経支配）を知る		
3	前腕の筋（屈筋群）【金谷】	○上肢帯、上腕の筋について構造（起始・停止・走行・作用・神経支配）を知る		
4	前腕の筋（伸筋群）【金谷】	○前腕の伸筋について構造（起始・停止・走行・作用・支配神経）を知る		
5	手の筋（手内在筋）【金谷】	○手内在筋について（起始・停止・走行・作用・支配神経）を知る		
6	頭部・頸部の筋【金谷】	○咀嚼筋群・頸部の筋について（起始・停止・走行・作用・支配神経）を知る		
7	胸部の筋（秋山）	大胸筋、小胸筋、前鋸筋、内外肋間筋、横隔膜、呼吸筋とその補助筋、呼吸運動について		
8	腹部の筋（秋山）	腹直筋、内外腹斜筋、腹横筋、腰方形筋、腹筋をしたときの活動		
9	背部の筋（秋山）	僧帽筋、広背筋、菱形筋群、肩甲挙筋、脊柱起立筋について詳細に学習する		
10	顔面の筋（秋山）	表情筋（眼輪筋、口輪筋、前頭筋、顴筋など）と咀嚼筋（大顎骨筋、側頭筋、翼突筋）		
11	股関節周囲の筋（秋山）	臀筋群、外転筋、外旋筋について		
12	大腿の筋（秋山）	大腿四頭筋、ハムストリングス、大腿外側の筋について		
13	下腿の筋（秋山）	前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋について		
14	足の筋（秋山）	足底筋、その他足指の筋について		
15	修得確認	本試験		
教科書・参考書・資料				
<p>教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学、医学書院          参考資料：Anatomy coloring Book（廣川書店）          プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）</p>				
判定基準／割合		履修上の留意点		
<p>平常点：10点          素点：本試験90点(総論25点, 各論65点)</p>		<p>課題として、ノート作成を行う予定です。準備をしてください。</p>		

PT1年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>正常な人体の構造(循環器・消化器)を理解し、その構造がどのように機能発現に関わっているかを学ぶ。正常な構造と機能が基になり病気の成り立ちを理解することが、それに基づいた診断と治療・リハビリの裏付けとなり科学的根拠を深めることになる。本講義の内容は次年度の「内科学」に繋がる。~循環器と消化器~</p>	<p>人体における全身の正常な構造(循環器・消化器)やそれに関係する事象について理解でき、他者に説明できることを目標とする。</p>
<p>人体の構造Ⅲ</p>			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科:	岡村		
作業療法学科:	○原		
非常勤講師:			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	総論	生物基礎までの復習：動物の分類、呼吸と循環、消化管	
2	総論	生物基礎までの復習：神経系と反射、細胞、細胞分裂、DNAなど	
3	総論	生物基礎までの復習：優性遺伝と劣性遺伝、常染色体と性染色体。伴性遺伝など	
4	循環器系 総論/各論	総論 血管 肺循環/体循環 脳血管 心臓周囲の血管	
5	消化器系 総論・各論	消化器の流れ	
6	消化器系 各論	口腔、咽頭	
7	消化器系 各論	食道、胃	
8	消化器系 各論	小腸（十二指腸・空腸・回腸）、大腸（盲腸・結腸）	
9	消化器系 各論	肝臓、胆のう、膵臓	
10	消化器系 各論 代謝	糖質代謝	
11	消化器系 各論 代謝	脂質代謝	
12	消化器系 各論 代謝	蛋白質代謝	
13	消化器系 各論 代謝	ビタミン など	
14	症例演習	肌トラブル（細胞小器官 消化器系 糖質代謝 蛋白質代謝 ビタミンなどの知識の活用） ダイエットの効果やリスク（脂質代謝 蛋白質代謝 ビタミンなどの知識の活用）	
15	理解度確認	筆記試験・前期授業の振り返り	
教科書・参考書・資料			
教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院			
教科書：からだが見える 人体の構造と機能 第1版、メディックメディア			
判定基準/割合		履修上の留意点	
<p>平常点：28点 〔レポート(2点×14回)〕</p> <p>素点：72点 〔筆記試験(72点)〕</p>		<p>毎回授業後にレポート課題が出されます。 指定された日までにレポートを提出することでレポート点を加算します。</p>	

PT1年	後期	講義概要	一般目標	
専門基礎分野		<p>生命の機能（はたらき）を生体に含まれる物理的・化学的要素のネットワークの帰結として説明するのが生理学である。基礎となる細胞の一般生物学や、個体としての生命を成り立たせている機能系について包括的に学ぶ。植物性機能を範囲とする。</p>	<p>各機能系について、物理的・化学的要素を出発点に、現象の生理学的な説明ができる。生理学的なディスカッションができる。臨床的意義が理解できる。演習では実際に知識を問題解決のために用い、考える練習をする。</p>	
専門基礎分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○秋山			
作業療法学科：	原			
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	神経総論（秋山）	中枢および末梢神経などの神経系の構造と発生を学ぶ		
2	中枢神経系（秋山）	大脳皮質・間脳の構造について学ぶ		
3	中枢神経系（秋山）	中脳・橋の構造について学ぶ		
4	中枢神経系（秋山）	延髄・小脳の構造について学ぶ		
5	中枢神経系（秋山）	脊髄神経の構造と機能を学ぶ		
6	脳から脊髄までの伝道路（秋山）	皮質脊髄路・皮質延髄路について理解する		
7	復習（秋山）	秋山担当コマについて復習する		
8	感覚器 総論【原】	皮膚、視覚器（眼窩・眼球）		
9	感覚器 各論【原】	聴覚器（聴覚・平衡感覚）		
10	感覚器 各論【原】	味覚・嗅覚器		
11	呼吸器 総論/各論【原】	総論 上気道		
12	呼吸器 各論【原】	下気道		
13	呼吸器 各論【原】	肺・胸膜		
14	泌尿器生殖器 総論/各論【原】	腎・泌尿器・生殖器など		
15	理解度の確認	本試験実施		
教科書・参考書・資料				
教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学、医学書院				
参考書：分担解剖学、金原出版 解剖学アトラス、文光堂				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：10点 素点：90点（原45点、秋山45点）		なし		

PT1年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>基礎となる細胞の一般生物学や、個体としての生命を成り立たせている機能系について包括的に学ぶ。植物性機能、特に消化器系・代謝以外を範囲とする。演習では実際に知識を問題解決のために用い理解することで、日常生活における生理的反応への関心を高めることを目的としている。</p> <p>～「生きるため」の機能を学ぼう～</p>	<p>各機能系について、物理的・化学的要素を出発点に、現象の生理学的な説明ができる。臨床的意義を理解し、生理学的なディスカッションができる。</p>
人体の機能Ⅰ			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○岡村		
作業療法学科：	武井		
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	血液～赤血球～	血液の成分・生成・分化、赤血球の機能、貧血の病態の基礎について説明できる。	
2	血液～免疫系～	白血球の機能、アレルギーの病態の基礎について説明できる。	
3	血液～血液凝固系・線溶系～	血液の成分・生成・分化、血小板の機能、動脈硬化の病態の基礎について説明できる。	
4	循環器系①	最高血圧・最低血圧について説明できる。血圧測定の結果を解釈し、説明できる。	
5	循環器系②	血圧調整（圧受容器反射、バルサルバ現象）、息を止めて運動をしてはいけない理由を説明できる。	
6	泌尿器系	腎臓（ネフロンなど）・膀胱（排尿反射など）の機能、再吸収と分泌、排尿反射について説明できる。	
7	呼吸器系①	呼吸と呼吸調節（化学受容器反射・ヘーリングブローヤー反射）、自発呼吸のメカニズムについて説明できる。	
8	呼吸器系②	酸塩基平衡、呼吸性代償と腎性代償、運動時に換気が増えるメカニズムについて説明できる。	
9	内分泌系①総論・性	内分泌系とはなにか、主に月経周期について説明できる。	
10	内分泌系②血圧・血糖	血圧調整・血糖調整の内分泌的機序、降圧薬などの作用機序について説明できる。	
11	内分泌系③骨代謝関連	骨形成と骨吸収、リモデリング、骨粗鬆症・骨軟化症の病態の基礎について説明できる。	
12	自律神経系	交感神経と副交感神経、闘争か逃走か反応について説明できる。	
13	症例演習（お酒の飲みすぎによる生理反応について）① 初期	循環（紅潮・心拍数増加）・呼吸（頻呼吸）・泌尿器（多尿）の知識の活用。飲酒後の具体的な介抱方法の根拠について、生理学的に説明できる。	
14	症例演習（お酒の飲みすぎによる生理反応について）② 末期（脂肪肝・胆石）	血液（肝炎・黄疸・出血傾向）・内分泌（骨軟化症）の知識の活用。長期飲酒時の身体症状について、生理学的に説明できる。	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
参考書：竹内昭博著 『Qシリーズ 新生理学』 日本医事新報社 2021			
判定基準／割合		履修上の留意点	
<p>素点：筆記試験 86点</p> <p>平常点：課題提出 14点</p>		<p>※必ずノートを持参すること。また写すだけでなく、理解するためのノートを作成すること。※課題提出については、次回の授業の前日17:00までに提出すること（14コマ目の講義分に関しては、講義から1週間後を期限とする）。1回につき1点を付与する。</p>	

PT1年	後期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		細胞の一般機能を基礎として、個体としての生命を成り立たせている機能系について包括的に学ぶ。動物性機能の感覚・統合・運動系までを範囲とする。 ～「動くため」の機能について学ぼう～	各機能系について、物理的・化学的要素を出発点に、現象の生理学的な説明ができる。臨床的意義を理解し、生理学的なディスカッションができる。
人体の機能Ⅱ			
専門基礎分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科：	○岡村		
作業療法学科：	武井		
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	筋（構造による特性）	弾性要素、収縮要素、羽状筋、紡錘状筋、生理的断面積について説明できる。	
2	筋（筋力の変動について：筋長）	興奮収縮連関（連結橋・フィラメント滑走説）、長さ張力曲線について説明できる。	
3	筋（筋力の変動について：収縮速度）	収縮様式（求心性・等尺性・遠心性）、速さ張力曲線について説明できる。	
4	筋（筋力の変動について）	筋線維タイプ（赤筋・白筋など）、運動単位（動員とサイズの原理）	
5	神経（中枢神経系レベル）中枢解剖・機能・発生	大脳（大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核）、小脳、間脳、脳幹（中脳・橋・延髄）、脊髄、脳室系の機能について説明できる。	
6	神経（運動系レベル）下行性伝導路（中枢・末梢）①	錐体路（皮質脊髄路）、錐体外路（網様体脊髄路 等）、脊髄反射（伸張反射）	
7	神経（運動系レベル）下行性伝導路（中枢・末梢）②	脊髄反射（ $\alpha$ $\gamma$ 連関・筋紡錘の構造）について説明できる。	
8	神経（運動系レベル）下行性伝導路（中枢・末梢）③	脊髄反射（Ib抑制・腱紡錘の構造）	
9	神経（感覚系レベル）上行性伝導路（一般感覚系）①	温痛覚・触覚・感覚受容器、脊髄視床路、脊髄小脳路、後索路について説明できる。	
10	神経（感覚系レベル）上行性伝導路（特殊感覚系）②	視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚の受容器について説明できる。	
11	神経（末梢神経系）脳神経	末梢神経と、脳神経の概要について説明できる。	
12	神経（細胞レベル）	静止膜電位と活動電位の発生機序について説明できる。	
13	神経（細胞レベル）	神経伝導について説明できる。	
14	神経（組織レベル）	シナプス伝達について説明できる。	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
参考書：竹内昭博著 『Qシリーズ 新生理学』 日本医事新報社 2021			
判定基準／割合		履修上の留意点	
素点：筆記試験 86点 平常点：課題提出 14点		※必ずノートを持参すること。また写すだけでなく、理解するためのノートを作成すること。※課題提出については、次回の授業の前日17:00までに提出すること（14コマ目の講義分に関しては、講義から1週間後を期限とする）。1回につき1点を付与する。	

PT1年	後期	講義概要	一般目標	
専門基礎分野		運動の理解に必要な基礎力学および運動解析に必要な解剖学の基本を学ぶ。また運動に関わる生理学的メカニズムについて学習する。	運動を力学的にとらえ生理学的に説明できることを目標とする	
運動学Ⅰ				
専門基礎分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○藤原			
作業療法学科：	金谷			
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	さまざまな姿勢【基礎運動学 p355-364】【金谷】	○ヒトの運動や行動を理解する基礎となる。さまざまな姿勢の分類を知り、体験する。○さまざまな姿勢の状態を、記述できるようになる。		
2	姿勢と姿勢制御の基本概念【教科書 p32-43】【金谷】	○姿勢や運動の基礎的な概念である。重心と支持基底面について理解する。○さまざまな姿勢制御に利用される情報や機構について体験を通して理解する。		
3	運動の中樞神経機構【基礎運動学 p117-135】【金谷】	○前回実施した姿勢制御機構に関わる反射・反応について、理解を深める。○発達の見地より、反射・反応を学習する。		
4	【実習】基本動作の体験①座位・立ち上がり【教科書 p108-113,130-139】【金谷】	○座位姿勢および立ち上がり動作の基本を理解する。○体験および観察を通し、人による座位・立ち上がりの違いに気づく。○座位姿勢および立ち上がり動作を運動学的に記述できるようになる。		
5	【実習】基本動作の体験②臥位・起き上がり【教科書 p50-53,88-97】【金谷】	○臥位姿勢および起き上がり動作の基本を理解する。○体験および観察を通し、人による臥位・起き上がりの違いに気づく。○臥位姿勢および起き上がり動作を運動学的に記述できるようになる。		
6	【実習】基本動作の体験③寝返り【教科書 p62-73】【金谷】	○寝返り動作の基本を理解する。○体験および観察を通し、人による寝返りの違いに気づく。○寝返り動作を運動学的に記述できるようになる。		
7	まとめ【金谷】リハビリテーションへの応用に向けて	○体験した基本動作を、再度、運動学的に理解する。○姿勢や動作と、対象者の生活とのつながりについて検討する。(グループワーク)		
8	運動学とその領域(藤原)	○運動学の総論について理解する。○随意運動の階層性から運動学を学習する目的を理解する。○次回に授業に向けた課題作成。		
9	立ち上がり動作基礎①【p130-150】(藤原)	○立ち上がり動作を通して動作に関わる運動・要素について理解する。○事前課題に記入しながら立ち上がり動作に関する知識を整理する。		
10	立ち上がり動作基礎②【p130-150】(藤原)	○立ち上がり動作を阻害する要因等について考える。○学んだ内容から他科目とのつながりを理解する。○次回の授業に向けた課題作成。		
11	歩行の基礎知識①【p170-201】(藤原)	○歩行を通して動作に関わる運動・要素について理解する。○事前課題に記入しながら歩行に関する知識を整理する。		
12	歩行の基礎知識②【p170-201】(藤原)	○各相における関節角度変化、筋活動、モーメントについて理解する。○正常歩行における各機能の役割について理解する。		
13	歩行の基礎知識③【p170-201】(藤原)	○各相における関節角度変化、筋活動、モーメントについて理解する。○正常歩行における各機能の役割について理解する。		
14	まとめ(藤原)	○これまでの授業の振り返りを実施する。		
15	学習理解度の確認	○試験を通じて理解度を確認する。		
教科書・参考書・資料				
教科書：弓岡光徳ほか(編)：基本動作の評価と治療アプローチ。メジカルビュー社、2015。参考書：中村隆一ほか(著)：基礎運動学。第6版補訂。医歯薬出版株式会社、2012。適宜資料を配布する				
判定基準/割合		履修上の留意点		
素点：80点(金谷分50点、藤原分30点) 平常点：20点(藤原；課題提出)		【実習】と記載のある回は、動作体験を行いますので、ジャージなど動きやすい服装で出席してください。他者と接触する可能性があるため、アクセサリ類は外し、長い髪はヘアゴムやピンで留めるようにしてください。		

PT1年	後期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		岩熊の担当は、教科書P72~103を中心に「運動と栄養」「リハビリテーションと栄養」「栄養評価」「主な病態の栄養管理」を講義とグループワークを用い学ぶ。	セラピストとして現場に出た際、患者や利用者に対して活用できる知識を得ることができる。更に、グループディスカッションを通して、現場に出た際に、カンファレンス等で多職種の前で発言する場に慣れることができる。
リハビリテーション医学   栄養予防			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 30		
理学療法学科：	○富永		
作業療法学科：	兼子		
非常勤講師：	岩熊麻美		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	運動と栄養 リハビリテーションと栄養 低栄養と過栄養	運動と栄養 リハビリテーションと栄養 低栄養と過栄養	
2	運動と栄養 リハビリテーションと栄養 低栄養と過栄養	項目1の内容を加味したグループディスカッション	
3	糖尿病	糖尿病とは。糖尿病の栄養管理。糖尿病とリハビリテーション。	
4	糖尿病	項目3の内容を加味したグループディスカッション	
5	低栄養とサルコペニア	低栄養とは。低栄養の評価。サルコペニア。サルコペニアの評価。低栄養、サルコペニアのリハビリテーション。	
6	低栄養とサルコペニア	項目5の内容を加味したグループディスカッション	
7	予防とは？ ～理論と実際の生活から考える【鈴木】	作業行動理論や作業科学の視点から、予防（毎日の生活）を考える	
8	介護予防について【浦部】	介護予防概論 君津市での介護予防を考えよう 地域での介護予防の実際	
9	介護予防について【浦部】	介護予防とは 地域包括ケアシステムの中での役割 介護予防のターゲット 実践！やってみようコグニサイズ（実技）	
10	地域での介護予防の実際【浦部】	PTとは？OTとは？～PTができる事、OTができる事（個人・グループ検討） 地域での介護予防の実際 実際のプログラムを考えよう（個人・グループ検討）	
11	やってみよう介護予防【浦部・関口】	フレイル サルコペニア 認知症 コグニサイズ	
12	講義当日に配布する【板倉】	講義当日に配布する	
13	講義当日に配布する【板倉】	講義当日に配布する	
14	講義当日に配布する【板倉】	講義当日に配布する	
15	理解度確認	筆記試験（前期試験期間内に実施）	
教科書・参考書・資料			
リハベーシック 生化学・栄養学			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：10点、素点：90点（岩熊：40点、その他の教員：レポート50点）			



PT1年	後期	講義概要	一般目標	
専門基礎分野		生理学の知識を応用し、内科疾患を理解するための病理学を学ぶ。特に、次年度の総合共同演習Ⅱで扱う疾患について学ぶ。	諸疾患の病態と発症メカニズムを、生理学的根拠をもとに説明できるようになる。また、自身の不明な点について説明できるようになる。自身の勉強方法について成功体験を得て、その勉強方法を説明できる。	
病理学				
専門基礎分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科：	○藤原,小林,秋山,岡村,冨永			
作業療法学科：				
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	全体講義	次年度の総合共同演習Ⅱで扱う疾患の症状や発症機序について説明できる。		
2	全体講義	次年度の総合共同演習Ⅱで扱う疾患の症状や発症機序について説明できる。		
3	理解度の確認	筆記試験にて判定する		
4	グループワーク①	担当する項目について、同じ課題を担当する学生に説明できるようになる。		
5	グループワーク②	担当する項目について、違う課題を担当する学生に説明できるようになる。		
6	グループワーク①	担当する項目について、同じ課題を担当する学生に説明できるようになる。		
7	グループワーク②	担当する項目について、違う課題を担当する学生に説明できるようになる。		
8	グループワーク①	担当する項目について、同じ課題を担当する学生に説明できるようになる。		
9	グループワーク②	担当する項目について、違う課題を担当する学生に説明できるようになる。		
10	理解度の確認	筆記試験にて判定する		
11	発表資料作成・プレゼンテーション	グループワーク内で内容を統合し、発表資料を作成・プレゼンテーションができる。		
12	発表資料作成・プレゼンテーション	グループワーク内で内容を統合し、発表資料を作成・プレゼンテーションができる。		
13	発表	グループ毎に、グループ外の学生にプレゼンテーションを実施し、質疑応答を行うことができる。		
14	発表	グループ毎に、グループ外の学生にプレゼンテーションを実施し、質疑応答を行うことができる。		
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する		
教科書・参考書・資料				
参考書：竹内昭博著 『Qシリーズ 新生理学』 日本医事新報社 2021				
判定基準/割合		履修上の留意点		
平常点：100点		平常点は、出席状況を加味して判定する。		

PT1年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		リハビリテーションの概略とその考え方を学ぶ。医学、医療の知識について少しずつ説明をする。	<input checked="" type="checkbox"/> 自分がどのような仕事に就くのかを考えながら専門的な知識を修得することに対して興味と関心を持つことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 専門用語に触れ、その用語の意味を理解する。
リハビリテーション概論Ⅰ			
前期分			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○秋山		
作業療法学科：	兼子		
非常勤講師：	その他		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	リハビリテーションとは（秋山）	リハビリテーションの定義、職務内容。作業療法士・理学療法士の業務内容。各ライフステージに対するリハビリテーションの業務イメージ。	
2	リハビリテーション倫理（秋山）	リハビリテーションの取り巻く現状、ニーズを知る。リハビリテーション職種に求められる倫理観、哲学。患者に接する際に何を気をつけなければならないのか。	
3	廃用症候群（生活不活発病）（秋山）	廃用症候群とはどういうものなのか。循環器系の廃用症状。呼吸器系の廃用症状とそれ以外の病態も含めて理解する。	
4	チーム医療各職種の紹介（秋山）	チーム医療を構成する職種の紹介。チームアプローチのメリット・デメリット。各関連職種の役割の違い。各職種の養成形態や就業年数。	
5	社会保障制度と医療保険制度、介護保険制度（秋山）	社会保障制度の概要。リハビリテーションに関わる社会保障制度の範囲。リハビリテーションの診療報酬。地域医療構想について。	
6	医療事故、障害者スポーツ指導者について（秋山）	危険予知トレーニングの体験。医療事故・インシデントの定義。リハビリテーションが直面する医療事故について。障害者スポーツ指導者の資格を理解。	
7	全国障がい者スポーツ大会の概要【兼子】	障害者スポーツ大会の一般競技とは異なる点などの概要を学ぶとともに、大会がスポーツ未経験や初心者のスポーツ参加の動機づけを理解する。	
8	【実技】障害者スポーツの体験	シッティングバレーなどの障害者スポーツを実際に体験することで、障害者スポーツ指導員の業務内容を把握する。	
9	【実技】障害者スポーツの体験	シッティングバレーなどの障害者スポーツを実際に体験することで、障害者スポーツ指導員の業務内容を把握する。	
10	B型肝炎患者による患者講義【兼子】	医療安全、感染対策の重要性を学ぶ。 <input type="checkbox"/> B型肝炎の基本的知識、感染が拡大した経過 <input type="checkbox"/> B型肝炎患者からの体験談 <input type="checkbox"/> 体験談を踏まえて患者の状況と正しい知識	
11	機能評価なしには機能訓練を始められない【兼子】	<input type="checkbox"/> 機能評価の重要性 <input type="checkbox"/> 診断・評価法に求められるもの <input type="checkbox"/> 診断・評価の進め方 <input type="checkbox"/> 機能障害・能力評価の重要性 <input type="checkbox"/> 障害の帰結予測	
12	機能障害にはどんな評価法があるの？【兼子】	<input type="checkbox"/> 障害モデル <input type="checkbox"/> 障害評価の重要性	
13	機能障害にはどんな評価法があるの？【兼子】	<input type="checkbox"/> 機能障害の評価方法	
14	能力低下（能力障害）の評価方法を習得しよう【兼子】	<input type="checkbox"/> 能力低下の評価の意義 <input type="checkbox"/> 日常生活活動の評価方法 <input type="checkbox"/> 歩行障害の評価	
15	医療・福祉と法律 地域リハビリテーション【兼子】	<input type="checkbox"/> 医療者に関する規制 <input type="checkbox"/> 医療保険制度 <input type="checkbox"/> 老人保健法 <input type="checkbox"/> 公的年金 <input type="checkbox"/> 身体障害者福祉法 <input type="checkbox"/> 児童福祉法 <input type="checkbox"/> 老人福祉法 <input type="checkbox"/> 介護保険法	
教科書・参考書・資料			
橋原彰夫（編）：PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論-要点整理と用語解説 改訂第2版、診断と治療者、2011			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：40点 素点：60点		グループワークを中心に授業を展開します。活発なディスカッションをお願いします。	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		リハビリテーションの概略とその考え方を学ぶ。医学、医療の知識について少しずつ説明をする。	自分がどのような仕事に就くのかを考えながら専門的な知識を修得することに対して興味と関心を持つことができる。専門用語に触れ、その用語の意味を理解する。
リハビリテーション概論Ⅰ			
後期分			
専門基礎分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○秋山		
作業療法学科：	兼子		
非常勤講師：	その他		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	医師とは	医師の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
2	医師とは	医師の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
3	看護師とは	看護師の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
4	看護師とは	看護師の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
5	言語聴覚士とは	言語聴覚士の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
6	言語聴覚士とは	言語聴覚士の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
7	社会福祉士とは	社会福祉士の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
8	社会福祉士とは	社会福祉士の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
9	理学療法士・作業療法士法について	弁護士視点より医療に関する法律・理学療法士作業療法士に関する法律について理解する	
10	障害者スポーツ実践①	君津圏域で実施される障害者スポーツ大会へ参加する	
11	障がい者スポーツ実践②	君津圏域で実施される障害者スポーツ大会へ参加する	
12	医療連携実践①	実際の症例を通じて、理学療法士や作業療法士・他職種がどのように連携し関わるかを理解する	
13	医療連携実践②	実際の症例を通じて、理学療法士や作業療法士・他職種がどのように連携し関わるかを理解する	
14	医療連携実践③	実際の症例を通じて、理学療法士や作業療法士・他職種がどのように連携し関わるかを理解する	
15	医療連携実践④	実際の症例を通じて、理学療法士や作業療法士・他職種がどのように連携し関わるかを理解する	
教科書・参考書・資料			
橋原彰夫（編）：PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論-要点整理と用語解説 改訂第2版、診断と治療者、2011			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：7.6点 棄点：2.4点		様々な非常勤講師の先生がいらっしゃいます。積極的な参加を望みます。	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		理学療法士として、基礎領域の講義および演習。リハビリテーション医療としての理学療法の考え方、歴史、理学療法の診療行程、対象疾患領域、人間発達、老化・運動療法などを学ぶ。	理学療法領域および理学療法士の全体像の把握し、職域や職能について説明できる。
理学療法概論			
前期分			
専門分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科： ○秋山,岡村			
作業療法学科：			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	整形疾患①（実技体験含む）	腰背部痛・腰椎椎間板ヘルニアの疾患概要や治療法を理解するとともに、触診・徒手療法を体験する。	
2	整形疾患②（実技体験含む）	野球肘の疾患概要や治療法を理解するとともに、ROM検査を体験する。	
3	整形疾患③（実技体験含む）	野球肘の疾患概要や治療法を理解するとともに、ROM検査を体験する。	
4	教育	理学療法士と教育、世界における理学療法教育の変遷、我が国における理学療法教育の現状と課題。OSCEの概要、クリニカルクラークシップ、卒後教育制度	
5	循環・呼吸・代謝疾患（実技体験含む）	糖尿病の疾患・治療概要を理解すると共に、血圧測定の体験する。	
6	臨床推論	臨床推論（クリニカルリーズニング）を中心に理学療法の一連の過程を学ぶ。	
7	応用行動分析とコミュニケーション	応用行動分析について説明できるようになる。メタ認知能力について説明できるようになる。	
8	運動療法の基礎	野球肘を例に、物理学・力学・運動学を治療的介入に用いる理論背景を学ぶ。	
9	スポーツ疾患（実技体験含む）	膝前十字靭帯損傷の疾患概要や治療法を理解するとともに、MMTを体験する。また、スポーツ分野での理学療法士の関わりを理解する。	
10	スポーツ疾患（実技体験含む）	膝前十字靭帯損傷の疾患概要や治療法を理解するとともに、MMTを体験する。また、スポーツ分野での理学療法士の関わりを理解する。	
11	ICF・ICIDH	ICFとICIDHの概要を学び、それぞれの特徴を理解する。	
12	歴史・定義・法律①	理学療法に関する、歴史・定義・法律を学ぶ。理学療法とリハビリテーションの関係性について理解する。	
13	歴史・定義・法律②	理学療法に関する、歴史・定義・法律を学ぶ。理学療法とリハビリテーションの関係性について理解する。	
14	統計学・研究法	EBMの実践に必須の知識となるエビデンスについて学ぶ	
15	診療報酬制度	医療サービスのあり方、現行の診療報酬制度	
教科書・参考書・資料			
配布資料での講義			
判定基準/割合		履修上の留意点	
【前期分：50点】平常点：出席（5点）提出物（45点）		積極的な授業参加を臨みます。	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		理学療法士として、基礎領域の講義および演習。リハビリテーション医療としての理学療法の考え方、歴史、理学療法の診療行程、対象疾患領域、人間発達、老化・運動療法などを学ぶ。	理学療法学領域および理学療法士の全体像の把握し、職域や職能について説明できる。
理学療法概論			
後期分			
専門分野	時間数 2 コマ数 60		
理学療法学科：	○秋山,岡村		
作業療法学科：			
非常勤講師：			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	ディスカッション	今後の理学療法の将来性・方向性などを理解し、自身のキャリアラダーについて検討することができる。	
2	ディスカッション	患者様とコミュニケーションを図っていく上で知っておくべきコミュニケーション技法を理解し、活用できる。	
3	ディスカッション	開業権（ダイレクトアクセス）の有無について、双方の立場からメリットとデメリットを論じる。	
4	ディスカッション	政治、まずは自身の所属する学校の政治について主体的に考え、意見を述べることができる。	
5	ディスカッション	政治、まずは自身の所属する学校の政治について主体的に考え、意見を述べることができる。	
6	ディスカッション	理学療法士を取得する上で、現状の自身が抱える希望や不安について言語化し、多角的な視点を得ることができる。	
7	ディスカッション	理学療法士を取得する上で、現状の自身が抱える希望や不安について言語化し、多角的な視点を得ることができる。	
8	ディスカッション	理学療法士を取得する上で、現状の自身が抱える希望や不安について言語化し、多角的な視点を得ることができる。	
9	ディスカッション	理学療法士を取得する上で、現状の自身が抱える希望や不安について言語化し、多角的な視点を得ることができる。	
10	理学療法士（社会人）に必要な社会人基礎力（秋山）	社会人基礎力の構成を理解し、今後社会に出る上で必要な社会人基礎力とは何なのかを理解する	
11	理学療法士の職域（秋山）	現在先輩理学療法士達はどのような職域で従事しているのかを理解し、自身の将来に向けて知見を広げる	
12	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて説明できる	
13	理学療法の三大手技 ①物理療法（秋山）	物理療法の一部を実際に体験することで、今後学んでいく必要性や意義を理解する	
14	理学療法の三大手技 ②運動療法（秋山）	運動療法の一部を実際に体験することで、今後学んでいく必要性や意義を理解する	
15	理学療法の三大手技 ③装具療法（秋山）	装具療法の一部を実際に体験することで、今後学んでいく必要性や意義を理解する	
教科書・参考書・資料			
配布資料での講義			
判定基準／割合		履修上の留意点	
【後期分：50点】平常点：出席（5点）提出物（45点）		積極的な授業参加を臨みます。	

PT1年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		理学療法士にとり運動療法は患者の身体機能を非侵襲的に直接改善・向上することができる唯一の手段である。基礎理学療法学Ⅰでは、多くの疾患で共通する、理学療法士が習得すべき基本的介入方法について学ぶ。	理学療法技術の裏付けとなる基礎医学を学び、理論的な治療を行う力を身に付ける。ストレッチを通じて、筋の起始停止作用などの解剖学・運動学的知識を立体的なイメージに昇華させる。また脊髄反射の知識を活用し、ストレッチに活かすことができる。
基礎理学療法学Ⅰ			
専門分野	時間数 1 コマ数 30		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○秋山,岡村,富永		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	ストレッチングのための生理学的基礎知識の確認①	la抑制、伸張反射、lb抑制、反回抑制、γループなどのストレッチに必要な基礎知識を確認することで実技の理解度を高める	
2	ストレッチの種類・実技	静的ストレッチ・動的ストレッチ・固有受容器刺激ストレッチなどのストレッチ手技を実技を通じて学ぶ	
3	関節モビリゼーション実技	緩みの股位・締りの股位の確認。関節モビリゼーション実技	
4	ストレッチ実技	膝関節のストレッチの実技体験①	
5	ストレッチ実技	股関節のストレッチの実技体験①	
6	ストレッチ実技	股関節のストレッチの実技体験②	
7	ストレッチ実技	足関節のストレッチの実技体験①	
8	ストレッチ実技	足関節のストレッチの実技体験②	
9	ストレッチ実技	頸部のストレッチの実技体験①	
10	ストレッチの応用①	ケンダルの姿勢分類から各姿勢ごとのストレッチの特徴などを学ぶ	
11	ストレッチの応用②	ケンダルの姿勢分類から各姿勢ごとのストレッチの特徴などを学ぶ	
12	症例演習	模擬症例について、ROM結果からストレッチの内容や姿勢指導を立案する	
13	症例演習	模擬症例について、ROM結果からストレッチの内容や姿勢指導を立案する	
14	症例演習	模擬症例について、ROM結果からストレッチの内容や姿勢指導を立案する	
15	理解度の確認	実技試験により判定する	
教科書・参考書・資料			
なし			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点：実技試験100点		知識の理解だけでなく、活用方法に主眼を置いて学習すること。	

PT1年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		身体各部を構成する関節の、基本的な運動方向とその可動域を測定するために必要なこと（基本軸、移動軸等）について学ぶ。	身体各部の関節可動域の正しい測定方法を理解し実施できる。	
理学療法評価学Ⅲ（ROM）				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○富永			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	関節可動域測定の意味、測定機器	自動運動・他動運動、制限因子、ROMの一連の流れ		
2	下肢のROM測定	股関節屈曲、SLR、伸展、内転、外転		
3	下肢のROM測定	股関節外旋・内旋、膝関節屈曲・伸展、足関節底屈		
4	下肢のROM測定	足関節背屈、足部内がえし・外がえし・外転・内転		
5	上肢のROM測定	肩甲帯屈曲・伸展・挙上・下制、肩関節屈曲・伸展・外転・内転・外旋		
6	上肢のROM測定	肩関節内旋・水平屈曲・水平伸展、肘関節屈曲・伸展		
7	上肢のROM測定	前腕回内・回外、手関節背屈・掌屈・橈屈・尺屈		
8	手指のROM測定	母指橈側外転・掌側外転		
9	頸部のROM測定	頸部屈曲・伸展・側屈・回旋		
10	胸腰部のROM測定	体幹屈曲・伸展・側屈・回旋		
11	各関節におけるROM測定の復習	実技試験に向けた復習、練習		
12	各関節におけるROM測定の復習	実技試験に向けた復習、練習		
13	各関節におけるROM測定の復習	実技試験に向けた復習、練習		
14	実技試験	実技試験		
15	実技試験	実技試験		
教科書・参考書・資料				
教科書：イラストでわかる評価学 資料：プリント				
判定基準／割合		履修上の留意点		
平常点：10点 素点：90点（実技試験）		実技をメインに行うので、実技に適した身だしなみ・動きやすい服装で準備すること。		

PT1年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		座学・屋外学習を通じ、地域リハビリテーションの概念について学ぶ	地域リハビリテーションについて、自分自身の考えを持ち説明できること	
地域リハビリテーション				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原 安藤龍治,ゴルディロックス			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	特別講義①（非常勤講師）	地域リハビリテーション領域における理学療法・作業療法の実践の実際		
2	特別講義②（非常勤講師）	地域リハビリテーション領域における理学療法・作業療法の実践の実際		
3	特別講義③（非常勤講師）	地域リハビリテーション領域における理学療法・作業療法の実践の実際		
4	特別講義④（非常勤講師）	地域リハビリテーション領域における理学療法・作業療法の実践の実際		
5	地域づくりについて	地域での社会資源・役割を学び、地域リハの考え方を理解する		
6	地域リハビリテーションについて	地域包括ケアシステムの中にもリハビリテーションの位置づけを学ぶ		
7	フィールドワークの計画・役割分担①	グループ内でフィールドワークの行動計画を作成する		
8	フィールドワークの計画・役割分担②	グループ内でフィールドワークの行動計画を作成する		
9	フィールドワーク1回目	地域で活動し、グループ課題・個人課題をまとめる		
10	フィールドワーク1回目	地域で活動し、グループ課題・個人課題をまとめる		
11	フィールドワークの計画・役割分担③	グループ内でフィールドワークの行動計画を作成する		
12	フィールドワーク2回目	地域で活動し、グループ課題・個人課題をまとめる		
13	フィールドワーク2回目	地域で活動し、グループ課題・個人課題をまとめる		
14	グループごとに発表と質疑応答	指定されたルールに基づき、各グループの発表・質疑応答を実施		
15	振り返りの実施、地域ごとの違いについて	地域リハビリテーションの実例を交えて考え方を広げる		
教科書・参考書・資料				
資料を配布します。				
判定基準／割合		履修上の留意点		
平常点：出席点20点 グループ課題：30点 個人課題：30点 発表：20点		私語に関しては厳しく対応させていただきます		



PT1年	後期	講義概要	一般目標	
専門分野		障害を抱えた方が、社会に復帰する選択肢のひとつとして、再就職や新たな職業への就職が挙げられる。職業リハの歴史的な変遷や理学療法士としての位置づけと役割を学ぶ。	施設見学や調べ学習を通して、職業リハビリテーションに関わる資源、作業療法や職業訓練の実際を知る。その上で、理学療法士の役割について、自分の考えを述べることができることを目標とする。	
職業リハビリテーション				
専門分野	時間数 1			コマ数 15
理学療法学科：	○小林			
作業療法学科：				
非常勤講師：				
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	職業リハビリテーション概論講義	職業リハビリテーションの歴史や現状について理解する		
2	課題調査学習①	障害特性や支援体制、社会の在り方や周囲からの支援について調べ学習を行う。		
3	課題調査学習②	障害特性や支援体制、社会の在り方や周囲からの支援について調べ学習を行う。		
4	調査学習グループ発表会①	障害特性や支援体制について発表を行い、理解を深める。		
5	調査学習グループ発表会②	社会の在り方や周囲からの支援について発表を行い、理解を深める。		
6	千葉リハビリテーションセンター 更生園への見学実習	更生園への見学		
7	千葉リハビリテーションセンター 更生園への見学実習	更生園への見学		
8	千葉リハビリテーションセンター 更生園への見学実習	更生園への見学		
9	.	.		
10	.	.		
11	.	.		
12	.	.		
13	.	.		
14	.	.		
15	.	.		
教科書・参考書・資料				
資料：必要時にプリント配布 見学施設：千葉リハビリテーションセンター更生園				
判定基準/割合		履修上の留意点		
素点：10点，平常点：調べ学習と発表 50点，レポート課題 40点		7月に施設見学に行きます。		

PT1年	前期	講義概要	一般目標	
専門分野		機器、福祉用具の使用方法や保険制度・必要とする対象者等について学ぶ。実技形式で機器・用具に触れながら学習を深め、専門職として必要なスキル（障害に合わせた選択・簡潔な説明）を身につけていく。	・福祉用具の使用方法を理解し、正しく取り扱える ・機器の使用方法を簡単に説明することができる ・障害像に合わせた機器を選択し、生活環境のシミュレーションを実践できる	
リハビリテーション機器				
専門分野	時間数 1			コマ数 30
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原 安藤龍治			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	リハ機器とは（概論・用具体験）、ADLについて	リハビリテーション機器を学ぶ意義・各福祉用具の紹介と体験		
2	車いすの種類・用途・名称	車いすの種類・用途・名称について学ぶ		
3	車いすの採寸・自走・介助	シーティング・採寸調整・介助を含めた操作方法の習得		
4	起居・移乗介助の実技練習	ベッドから車いす間の全般的な介助方法について学ぶ		
5	ベッドの選定・種類	ベッド・付属品の使用目的と用途		
6	専門職が行う機器の説明スキル	用具の取り扱い方法・使用目的を簡潔に説明するスキルを学習		
7	杖・歩行補助具	補助具の種類・用途・特徴を学習し、段差昇降の介助練習		
8	住宅環境に関連する機器	手すり・スロープの種類や設置方法を学習		
9	保険制度・給付・費用	用具にかかる費用・貸与・購入品の違いを理解する		
10	シミュレーションの実施	仮症例を用い、生活環境のプランニングを実践		
11	入浴・排泄用具	浴槽介助と用具の取り扱いについて		
12	実技試験	機器の取り扱い方法とその説明にまつわる試験を実施		
13	実技試験	機器の取り扱い方法とその説明にまつわる試験を実施		
14	総ざらいと振り返り	扱った用具の見直しを行う		
15	理解度の確認	本試験実施		
教科書・参考書・資料				
資料はスライドを印刷して配布予定。				
判定基準／割合		履修上の留意点		
平常点：10点 素点：実技試験45点 筆記試験45点		普段着で構いませんが、動きやすい服装推奨（実技中心のため）		

PT1年	通年	講義概要	一般目標	
専門分野		地域における理学療法士並びにリハビリテーション関連職種 の役割について学ぶ。	早期の段階から臨床現場を体験することで、自らの将来像 を明確なものとし、学内学習の必要性や目的を理解するこ とでより良い学習につなげる。また、利用者の背景や利 用目的、スタッフの関わり方などを知ることで、人に関わ ることの重要性を感じ、倫理観や責任感を養うことを目的 とする。	
地域リハビリテーション実習				
専門分野	時間数 1			コマ数 40
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○秋山			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	オリエンテーション	○科目の目的、目標、科目内の課題について説明する。○実習時に必要とされるコミュニケーションスキル、モラル、 介助方法、見学時のリスク管理等について学習する		
2	登院試験①	○実習時に必要とされるコミュニケーションスキル、モラル、介助方法、見学時のリスク管理等について学習する。 ○学習内容について理解度・修得度を確認する。		
3	登院試験②	○学習内容について理解度・修得度を確認する。 ○見学実習に向けての準備を行う。		
4	見学①	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
5	見学②	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
6	見学③	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
7	見学④	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
8	見学⑤	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
9	見学⑥	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
10	見学⑦	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
11	見学⑧	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
12	見学⑨	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
13	見学⑩	○2日間の見学実習を行う。 ○実習中に学んだことを整理し、実習要項に記入する。		
14	登院試験③	○学習内容について理解度・修得度を確認する。 ○見学実習に向けての準備を行う。		
15	振り返り・発表・お礼状の作成	○見学実習の振り返り ○見学実習で得られた内容について発表を行う。 ○お礼状を作成する。		
教科書・参考書・資料				
社会保障審議会介護給付費分科会資料（第140回訪問リハビリテーション、第141回通所リハビリテーション）				
判定基準／割合		履修上の留意点		
実習評価（30%） 登院試験（30%） 課題提出（30%） 発表（10%）		前期10コマ、後期10コマ 実習の参加にあたっては、清潔感ある容姿（頭髪など）であることが基本条件となる（実習に 即した容姿の在り方を各自が判断できるように）。		

PT1年	通年	講義概要	一般目標
	その他	障害者支援施設の見学や地域在住高齢者の体力測定などを通じ、地域社会で求められる事柄や現状を理解して、地域社会に貢献する術を学ぶ。	地域社会に触れることで理学療法士としての専門性が活かせる場面、環境、方法、資源について考える。
	ソーシャルアクティブラーニング		
その他	時間数 1		
理学療法学科：	○藤原,小林,富永		
作業療法学科：			
非常勤講師：	志垣健一郎		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション	①科目の目的、目標について説明する②見学時に必要となる車いすの介助方法について実技を含め学習する。③どんぐりの郷の事前説明	
2	見学（どんぐりの郷）	どんぐりの郷の見学を通して、障害者支援施設について学習する。	
3	見学（どんぐりの郷）	どんぐりの郷の見学を通して、障害者支援施設について学習する。	
4	ロールモデル講座①	地域で活躍する医療専門職の話聞く。	
5	ロールモデル講座②	地域で活躍する医療専門職の話聞く。	
6	地域在住高齢者の体力測定について	体力測定の実施方法について理解を深める。	
7	地域在住高齢者の体力測定項目の意義について	測定項目の臨床的意義やカットオフ値について理解を深める。	
8	地域在住高齢者へのインタビュー準備	地域での生活をインタビューにより聴取することで、高齢者の困り事などについて理解を深める。	
9	地域在住高齢者の体力測定準備①	測定に関する準備やシミュレーションを実施する。	
10	地域在住高齢者の体力測定準備②	測定に関する準備やシミュレーションを実施する。	
11	地域在住高齢者への運動指導準備①	運動指導に関する準備やシミュレーションを実施する。	
12	地域在住高齢者への運動指導準備②	運動指導に関する準備やシミュレーションを実施する。	
13	体力測定と運動指導の実施①	地域在住高齢者に測定と運動指導、インタビューなどを実施する。	
14	体力測定と運動指導の実施②	地域在住高齢者に測定と運動指導、インタビューなどを実施する。	
15	振り返り	グループでの情報共有や改善点の確認、グループディスカッションによる振り返りを行う。	
教科書・参考書・資料			
.			
判定基準/割合		履修上の留意点	
見学：30%、ロールモデル講座感想：20%、体力測定演習・振り返り：50%		施設や利用者様、参加者様のご理解あって実施できている科目となります。対外的な学習となりますので、礼儀をもって取り組むこと。演習の参加にあたっては、清潔感のある容姿（頭髪など）であることが基本条件となる。	

PT1年	前期	講義概要	一般目標
その他		<p>・授業開始時に模擬試験の目標点を設定し、達成するための計画立案、実行、修正を行う。</p> <p>・グループワークとして他学年（2・3・4年生）に基礎科目（解剖学、運動学、生理学）を教わり質問する役割を体験する。</p>	<p>・自ら設定した目標に対して主体的に取り組める。また目標達成にあたり、計画をたて、実行し、修正することができる、ある一定の成果を出せる。</p> <p>・基礎科目の内容を専門科目との関連性も含めて説明できる。</p>
総合共同演習Ⅰ			
その他	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,小林,秋山,岡村,富永		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション	目標点の設定	
2	他学年とのグループワーク（生理学）①	グループワークの各議題において、内容を他学年から学ぶことを通じて、基礎科目(生理学)の理解を深める。	
3	他学年とのグループワーク（生理学）②	グループワークの各議題において、内容を他学年から学ぶことを通じて、基礎科目(生理学)の理解を深める。	
4	他学年とのグループワーク（生理学）③	グループワークの各議題において、内容を他学年から学ぶことを通じて、基礎科目(生理学)の理解を深める。	
5	他学年とのグループワーク（生理学）④	グループワークの各議題において、内容を他学年から学ぶことを通じて、基礎科目(生理学)の理解を深める。	
6	他学年とのグループワーク（生理学）⑤発表・聴講	理解した内容を表出、あるいは聴講し、他者と討論することを通じて学習内容の理解をさらに深めることができる。	
7	他学年とのグループワーク（生理学）⑥発表・聴講	理解した内容を表出、あるいは聴講し、他者と討論することを通じて学習内容の理解をさらに深めることができる。	
8	理解度の確認	筆記試験を用いて、自ら立てた目標点の達成度の確認する。	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
参考書：竹内昭博著 【Qシリーズ 新生理学】 日本医事新報社 2018			
判定基準／割合		履修上の留意点	
素点：筆記試験による目標到達点：40点 筆記試験による実力加算点：40点 平常点：提出物：20点		常に基礎科目（生理学）として授業に参加すること。グループワークであるため、疑問があれば積極的に先輩に質問し、問いを解決すること。	

PT1年	後期	講義概要	一般目標	
その他		<p>グループワークとして他学年（2・3年生）とともに評価学に関する理解を深める。2年生の検査・測定の実演に対し、被験者の立場として意見をすることを体験する。・授業開始時に模擬試験の目標点を設定し、達成するための計画立案、実行、修正を行う。</p>	<p>・実演を体験することで、次年度の科目に対するイメージをつかむとともに、現在の授業内容の必要性や他の科目との関連性を理解する。・自ら設定した目標に対して主体的に取り組める。また目標達成にあたり、計画をたて、実行し、修正することができ、ある一定の成果を出せる。</p>	
総合実践演習Ⅰ				
その他	時間数 1			コマ数 15
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,小林,秋山,岡村,富永			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標		
1	オリエンテーション	目標点の設定		
2	他学年とのグループワーク（検査・測定の体験）①	2年生の実演課題において被験者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。		
3	他学年とのグループワーク（検査・測定の体験）②	2年生の実演課題において被験者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。		
4	他学年とのグループワーク（検査・測定の体験）③	2年生の実演課題において被験者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。		
5	他学年とのグループワーク（検査・測定の体験）④	2年生の実演課題において被験者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。		
6	他学年とのグループワーク（検査・測定の体験）⑤	2年生の実演課題において被験者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。		
7	他学年とのグループワーク（検査・測定の体験）⑥	2年生の実演課題において被験者として参加する。基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を学び理解を深める。		
8	理解度の確認	筆記試験を用いて、自ら立てた目標点の達成度の確認する。		
9	.	.		
10	.	.		
11	.	.		
12	.	.		
13	.	.		
14	.	.		
15	.	.		
教科書・参考書・資料				
参考書：松澤正『理学療法評価学 改訂第5版』金原出版 2016				
判定基準／割合		履修上の留意点		
素点：筆記試験による目標到達点：40点 筆記試験による実力加算点：40点 平常点：提出物：20点		常に基礎科目（解剖学・運動学）との関連性を考えながら被験者として授業に参加すること。参加にあたっては清潔感ある容姿であることが基本条件となる。		

PT1年	通年	講義概要	一般目標
	その他	1年次履修した人体の構造・人体の機能・運動学を総復習し、年度末に実施される「全国合同3科目統一模擬試験」の対策をする講義とする。	「全国合同3科目統一模擬試験」にて各個人の設定する目標に到達することを目標とする。また国家試験問題に多く触れ、国家試験の傾向をつかむことも目的とする。
	総合問題演習Ⅰ		
	その他 時間数 1 コマ数 15		
	理学療法学科： ○藤原, 福永 作業療法学科： 非常勤講師：		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	人体の構造（解剖学）の復習	筋の起始・停止・作用・支配神経を中心に復習する。	
2	人体の構造（解剖学）の復習	筋の起始・停止・作用・支配神経を中心に復習する。	
3	人体の機能（生理学）の復習	神経・筋の生理学を復習する。	
4	人体の機能（生理学）の復習	神経・筋の生理学を復習する。	
5	人体の機能（生理学）の復習	循環の生理学を復習する	
6	運動学の復習	関節や靭帯、筋について復習する。	
7	運動学の復習	関節や靭帯、筋について復習する。	
8	.	.	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
特になし。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：100点（能動的参加点10点、授業内課題90点）		積極的な授業参加を望みます。	

PT1年	通年	講義概要	一般目標
	その他	上級生が実施する実技試験、ならびにセミナー発表に参加することで、臨床の疑似体験や思考を学び、今後の学習に活かす。	医療専門職として必要となる思考力・表現力を高める。また上級生との交流を通じて社会人基礎力を高めることを目標とする。
	臨床思考演習Ⅰ		
その他	時間数 1 コマ数 15		
理学療法学科： 作業療法学科： 非常勤講師：	○藤原,富永		
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	報告会の見学	評価実習後報告会見学（時期：11月、学年：第3学年）	
2	報告会の見学	評価実習後報告会見学（時期：11月、学年：第3学年）	
3	実技の見学	計測実習前登院試験見学（時期：12月、学年：第2学年）	
4	実技の見学	計測実習前登院試験見学（時期：12月、学年：第2学年）	
5	実技の見学	計測実習前登院試験見学（時期：12月、学年：第2学年）	
6	報告会の見学	計測実習後報告会見学（時期：3月、学年：第2学年）	
7	報告会の見学	計測実習後報告会見学（時期：3月、学年：第2学年）	
8	患者まとめシート発表会の見学	2年生が行う模擬症例患者まとめシートの発表会の見学（時期：3月、学年：第2学年）	
9	.	.	
10	.	.	
11	.	.	
12	.	.	
13	.	.	
14	.	.	
15	.	.	
教科書・参考書・資料			
特になし。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点：能動的参加点10点、課題・感想文90点		積極的な参加を望みます。	



